

巻頭言

過去10年間にわたっての「現代化カリキュラム」の実施の結果、その反省と将来への展望に立って、近く「改訂カリキュラム」が実施されるようとしている。現在はその移行期にあたり、教科書の編集が始まっている。

教育現実からつねに新しい問題が提起され、その解決が求められている。その問題は理論的、実践的、方法論的その他いろいろな種類のものである。しかし、どの問題も完全な答というものはありえないように見える。二つの答のうち一方が他方よりすぐれているということではかありえない。私たちの研究をかりたてものはこのよりよい答を探がそうとする意欲である。

本今年報も本号で9回目の発行となった。どの号に掲載されている論文も、いろいろな数学教育に対するよりよい答を探求しようとするすぐれた労作であることにまちがいない。学会としてはきわめて小規模である本学会が毎年研究発表会を行い、すぐれた論文を掲載した年報を出してきたのは、本会会員の旺盛な研究意欲と研究者の良心の結果というほかない。

今年度は4名の新会員を迎えることができた。本会の輝かしい実績を挙げてきた伝統がますます受け継がれ、さらに発展するであろうことを確信する。

竹内 芳男 (山形大、教養部)